

5 管理データ様式

5 管理データ様式

受注者は、施工管理（出来形管理・品質管理）の結果を、本様式を用いて提出しなければならない。なお、本記載様式に代えて、受注者・製造会社等が独自に作成した様式や土木学会等制定の一般市販品の様式を用いることも可能であるが、この場合、第2編森林土木工事施工管理基準に示すデータが記録可能であることを受注者自らが確認するものとする。また、本記載様式に示されていない場合についても、同様とする。

様式－1

（施工管理総括表の表紙記入例）

A－4版(210×297)

（施工年度）

（路線名・河川名）

（工事名） ○○工事

（施工管理の種別） でき形測定 品質管理 総括表

（施工者） 受注者名

（現場代理人） 氏 名

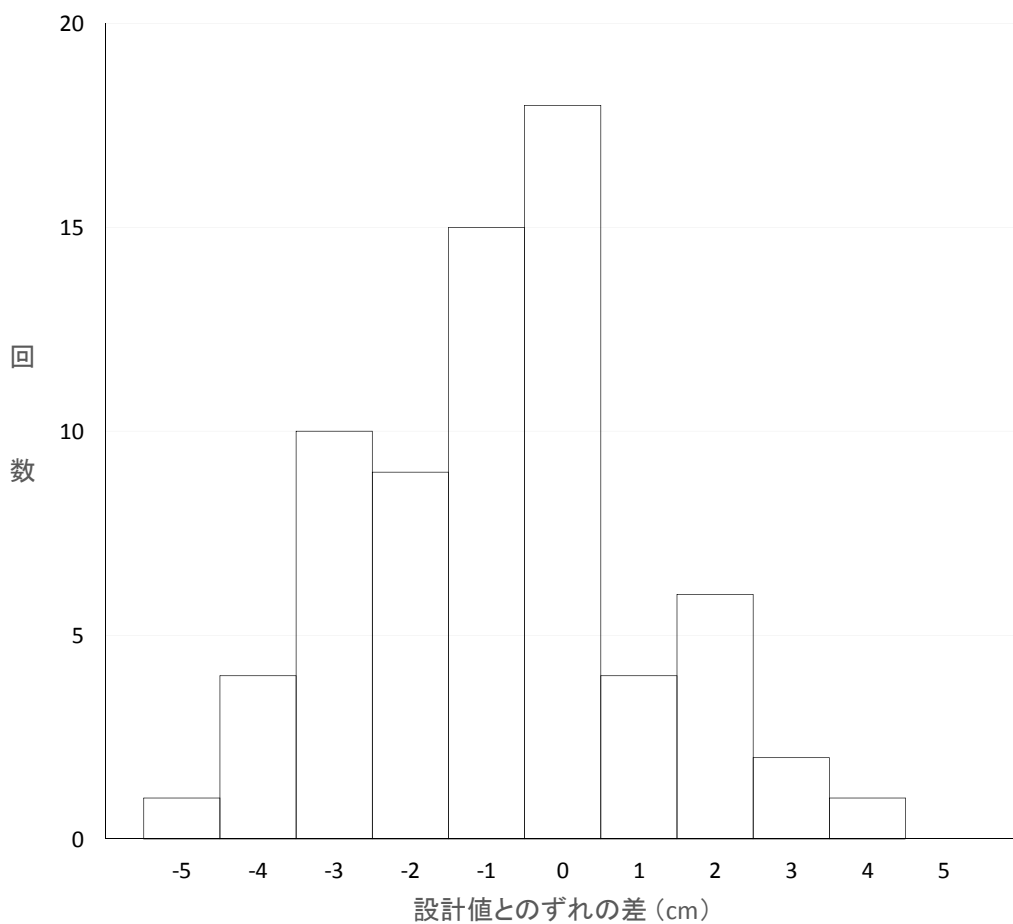
（主任技術者
又は監理技術者） 氏 名

でき形測定取まとめ図(取まとめ例)

[記入要領]

- イ 路床・路盤・舗装体各層の設計値と測定値のずれの差を記入する。
- ロ この図は、請負者測定の最終結果を整理したもののみを記入する。
- ハ 図の下には、算術平均値を記入する。

工種名	細粒度アス・コン工	高さの出来形測定
-----	-----------	----------



測定数 71
 差 $\left. \begin{matrix} -85 \\ +26 \end{matrix} \right\} -59 \therefore \text{ずれの差の平均} = \frac{-59}{71} = -0.83\text{cm}$

様式-4

	舗装路面の平坦性測定	試験 用紙 報告
調査・工事名 _____	測定年月日 _____ 年 月 日	
測定開始点 _____	測定機の種類 <input type="checkbox"/> 3mプロファイルメータ	
測定終了点 _____	<input type="checkbox"/> 3m直線定規	
測定距離 _____	測定者 _____	
シート番号 _____		

No.	d	No.	d	No.	d	No.	d	No.	d
1		21		41		61		81	
2		22		42		62		82	
3		23		43		63		83	
4		24		44		64		84	
5		25		45		65		85	
6		26		46		66		86	
7		27		47		67		87	
8		28		48		68		88	
9		29		49		69		89	
10		30		50		70		90	
11		31		51		71		91	
12		32		52		72		92	
13		33		53		73		93	
14		34		54		74		94	
15		35		55		75		95	
16		36		56		76		96	
17		37		57		77		97	
18		38		58		78		98	
19		39		59		79		99	
20		40		60		80		100	

①	Σ d (mm)	*	②	Σ d ² (mm ²)	*
③	データ数	*	標準偏差 $\sqrt{((2)-①^2/(3)) / ((3)-1)}$ (mm)		*

備考

注) *印の欄は、最後のデータシートのみ記述する。

土質試験結果一覧表

工種名 _____

測定者 _____

試料土 No.									
試料土の深さ	地表面から								
	基準面から								
試料土採取年月日									
試料土採取時の天候									
土粒子の密度									
粒 度	最大径								
	2.0mmふるい通過率 %								
	425 μ " %								
	75 μ " %								
コ テ ン シ ス イ	液性限界 %								
	塑性限界 %								
	塑性指数								
分 類	統一分類法								
	日本統一分類法								
	見かけ								
自 然 固 土 め と 土	現場含水比 %								
	現場乾燥密度 g/cm ³								
	最適含水比 %								
	最大乾燥密度 g/cm ³								
円 錐 貫 入 試 験 (コ ー ン 指 数)	地山	(N=0)							
	室内	N=20							
		N=40							
		N=80							
		N=120							
ボーリング柱状及び中心線に沿う土層断面図									

備考

注) 備考欄には試験機関名その他の試験結果等を記入すること。

土 凍上抑制層の突固め試験

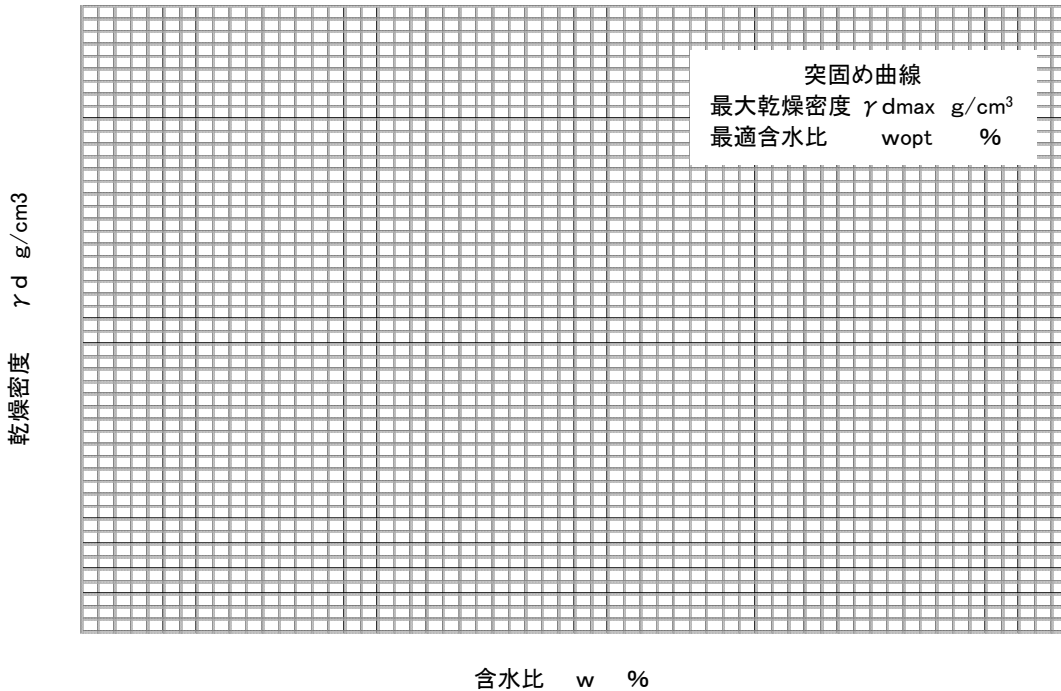
試料採取地名 _____

試料番号 _____

測定者 _____

試験目的: 普通締固め・CBR締固め 乾燥処理前含水比: _____ % 乾燥処理前含水比: _____ %
 試験方法の呼び名: 試験方法 _____ 試験開始前含水比: _____ % 土粒子の密度: _____
 突き固め方法: _____ 試料の使用別: 繰返し法・非繰返し法
 モールド内径: 10cm・15cm _____ cm 試料の準備法: 乾燥法・湿潤法
 試料許容最大粒径 _____ mm 許容最大粒径以上の粗粒分の乾燥重量百分率 _____ %

測定番号	1	2	3	4	5	6	7	8
乾燥密度 γ_d g/cm ³								
平均含水比 w %								



備考 * その他突固め方法: ランマー重量 _____ kg 落下高 _____ cm 突固め回数 _____ 回/層(_____ 層)
 ** 湿潤法を用いた場合

注 砂 法	現場における土の単位体積重量試験(砂置換法)	報告用紙
-------	------------------------	------

調査名・調査地点
 測点番号・深さ:No. (m)
 試験年月日 年 月 日
 天 候
 所 属
 試 験 者

試験用の砂の検定	検 定 マ ス の 深 さ	H						
	測 定 器 番 号	No.						
	測定器及び投入した砂重量 (一定重量)	W1	g					
	測 定 器 重 量	W2	''					
	投 入 砂 重 量	Wa=W1-W2	''					
	検定容器および砂重量	W3	''					
	検 定 容 器 重 量	W4	''					
	検 定 容 器 内 砂 重 量	Wb=W3-W4	''					
	測定器および残砂重量	W5	''					
	測 定 器 内 残 砂 重 量	Wc=W5-W2	''					
	検 定 容 器 の 体 積	Vc=206xH	cm ³					
	試験砂の単位体積重量	$\gamma_s = \frac{Wb}{Wc}$	g/cm ³					
	平 均 値	γ_s	''					
	ベースフレード及び漏斗を 満たす砂重量	Wf=Wa-Wb-Wc	g					
平 均 値	Wf	''						

土の単位体積重量測定	試 験 孔 番 号	No.					
	土 質 名						
	土 の 最 大 粒 径	Dmax	cm				
	容 器 番 号	No.					
	(湿潤土+容器)の重量	W6	g				
	容 器 の 重 量	W7	''				
	湿 潤 土 の 重 量	Wd=W6-W7	''				
	測定器および投入砂重量	W8(W1)	''				
	測定器および残砂重量	W9	''				
	試験孔にはいった砂の重量	W ₁₀ =W8-W9-Wf	''				
	試 験 孔 の 体 積	V=W ₁₀ / γ_s	cm ³				
	土の湿潤単位体積重量	$\gamma_t = \frac{Wd}{V}$	g/cm ³				
	土の乾燥単位体積重量	$\gamma_d = \frac{100\gamma_t}{100+W}$					

備 考

土の最大 粒 径	含水量試験 試料最小量	粒度試験 最 小 量
0.5mm	100g	250g
1.25	200g	625g
2.5	500g	2,000g
5.0	1,000g	4,000g

No.	No.	No.	No.
Wa Wb	Wa Wb	Wa Wb	Wa Wb
Wb Wc	Wb Wc	Wb Wc	Wb Wc
Ww Ws	Ww Ws	Ww Ws	Ww Ws
w = %	w = %	w = %	w = %
No.	No.	No.	No.
Wa Wb	Wa Wb	Wa Wb	Wa Wb
Wb Wc	Wb Wc	Wb Wc	Wb Wc
Ww Ws	Ww Ws	Ww Ws	Ww Ws
w = %	w = %	w = %	w = %
平均含水比 W = %	平均含水比 W = %	平均含水比 W = %	平均含水比 W = %

材 料 名	産 地	納 入 会 社

凍上抑制層
路盤工

凍上抑制層
材料試験成績一覧表

凍上抑制層材料

(火山灰)

75 μm 通過量	(%)
強熱減量	(%)
凍上率	(%)
凍結様式	

下層路盤材料

(切込砂利・切込碎石)

修正 C B R	R	(%)
すりへり量	量	(%)
安定性	性	(%)
75 μm 通過量	通過量	(%)

加熱アスファルト安定処理材料

(切込砂利・切込碎石)

比重	重	
すりへり量	量	(%)
安定性	性	(%)

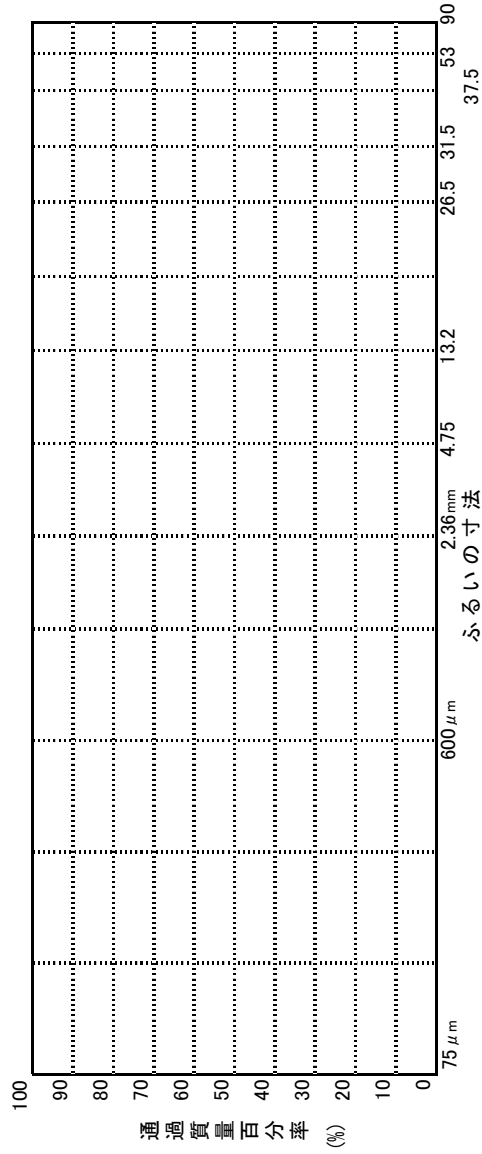
75 μm 通過量	(%)
75 μm 通過量	(%)

ふるい目	ふるい通過質量百分率(%)
53mm	37.5mm 13.2mm 2.36mm 600 μm
呼び名	

ふるい目	ふるい通過質量百分率(%)
37.5mm	31.5mm 26.5mm 13.2mm 2.36mm 75 μm
呼び名	

ふるい目	ふるい通過質量百分率(%)
90mm	53mm 37.5mm 4.75mm
呼び名	

75 μm 通過量 ~ 4.75mm 以下の質量に対する 75 μm 以下の
質量の割合



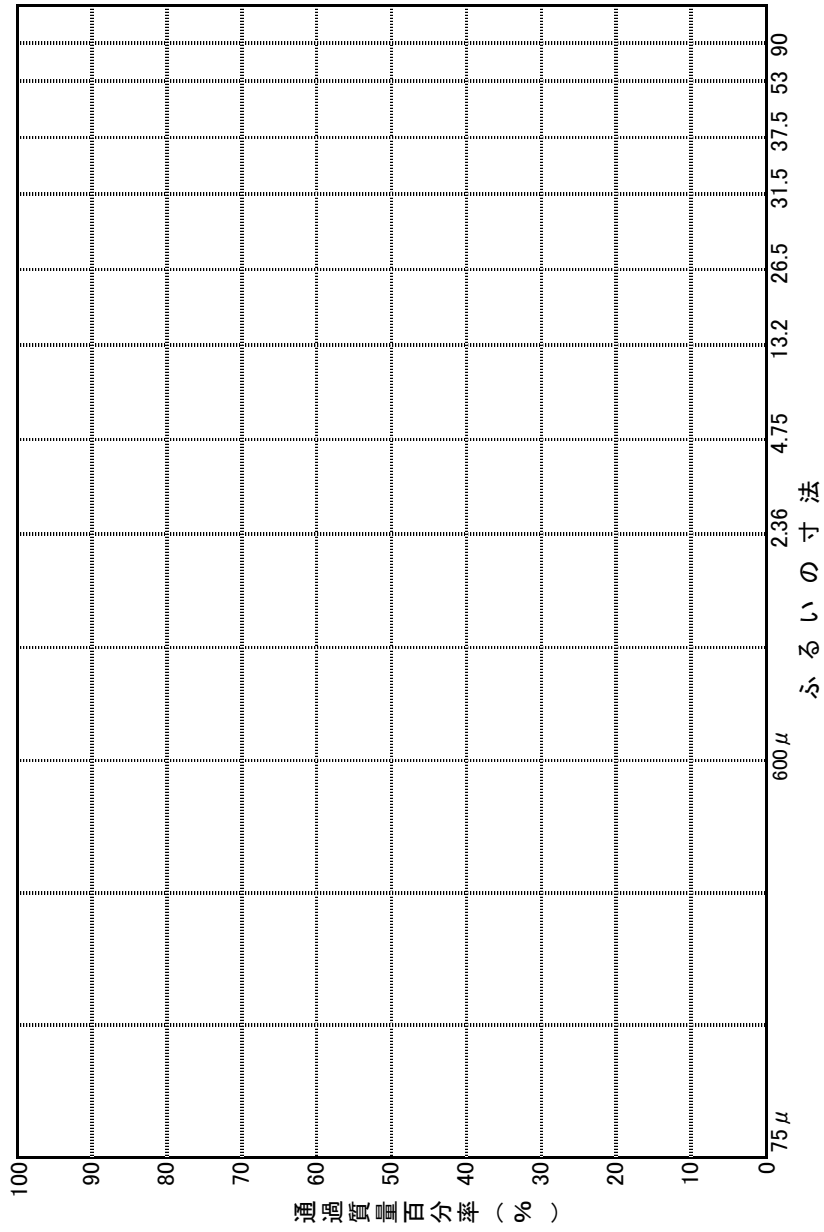
備考

注) イ. 産地及び材料ごとに記入すること。 ロ. 仕様書の粒度範囲も記入すること。 ハ. 記事欄には試験機関名その他の結果を記入すること。

凍上抑制層
下層路盤
材料のふるい分け試験一覧表

材料名 _____

測定者 _____



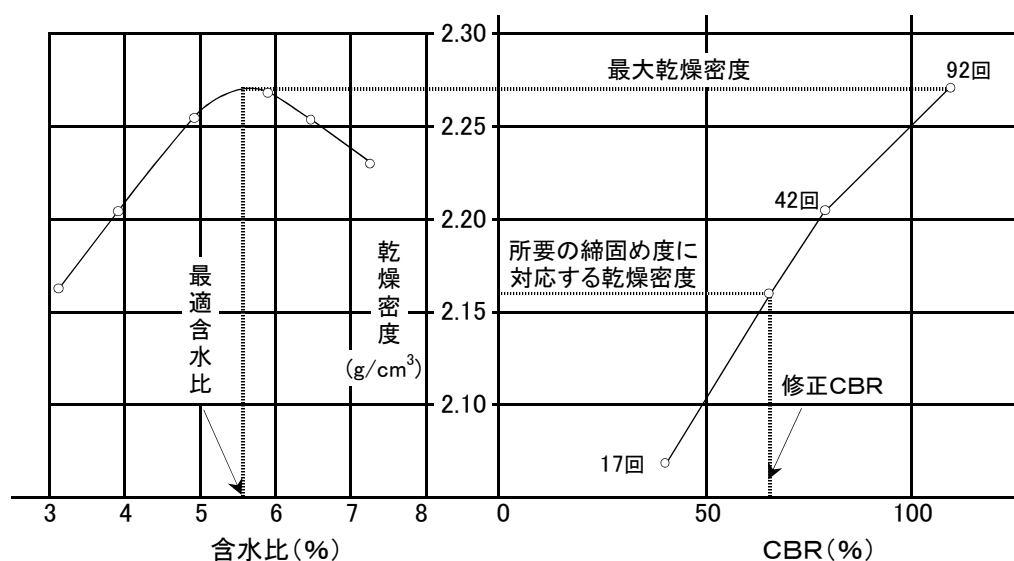
注) 仕様書の粒度範囲を記入すること。

路盤材料の突固め及び修正CBR試験成績表

測定者 _____

材 料 名	産 地	納 入 会 社

乾燥密度・含水比・CBR関係図



最適含水比(%)	5.6
最大乾燥密度(g/cm ³)	2.27
締固め度(%)	95
修正CBR(%)	66

記 事

試 験 目 的 :	CBR締固め	
試験方法の呼び名 :	試験方法 アスファルト舗装要綱	
突 固 め 方 法 :	第2方法	試料の使用別 : 非繰返し法
モ ー ル ド 内 径 :	15cm	試料の準備法 : 乾燥法
試料許容最大粒径 :	38.1mm	

測 定 番 号	1	2	3	4	5	6	7	8
乾燥密度 γ_d (g/cm ³)	2.17	2.21	2.25	2.27	2.25	2.23		
平均含水比 ω (%)	3.2	4.0	4.7	6.0	6.6	7.4		

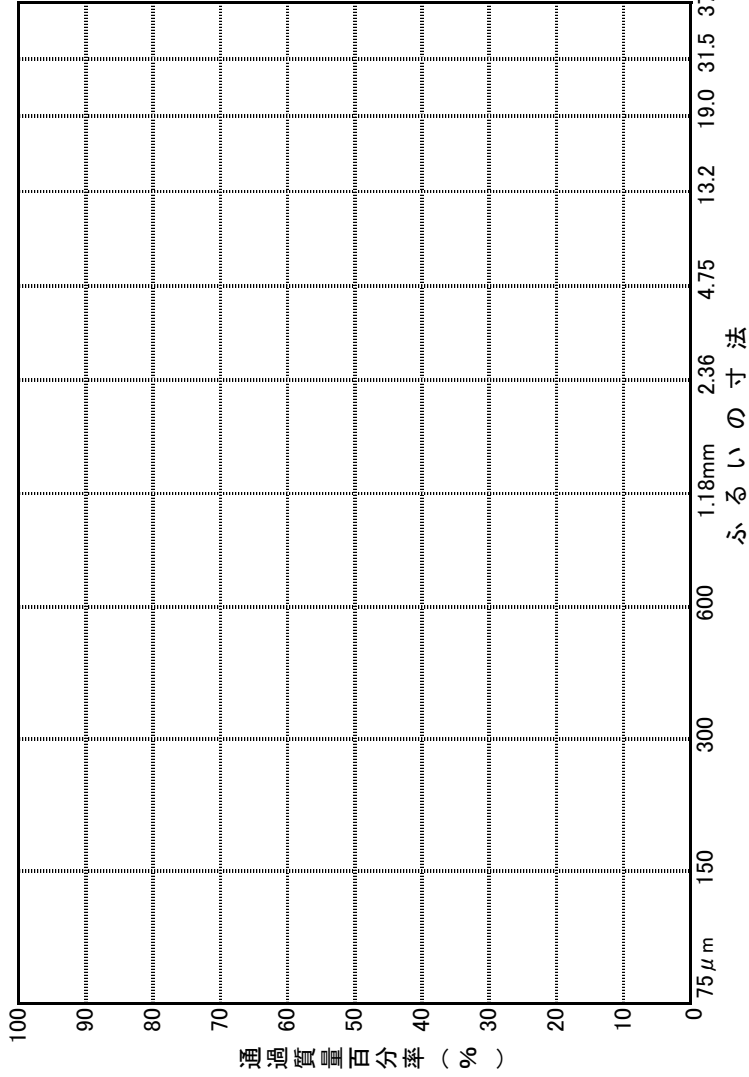
(注) 記事欄には、試験機関名その他を記入すること。

基層工の骨材試験成績一覧表

材 料 名	産 地	納 入 会 社

測定者 _____

アスファルト舗装用材料
砕石・砂利



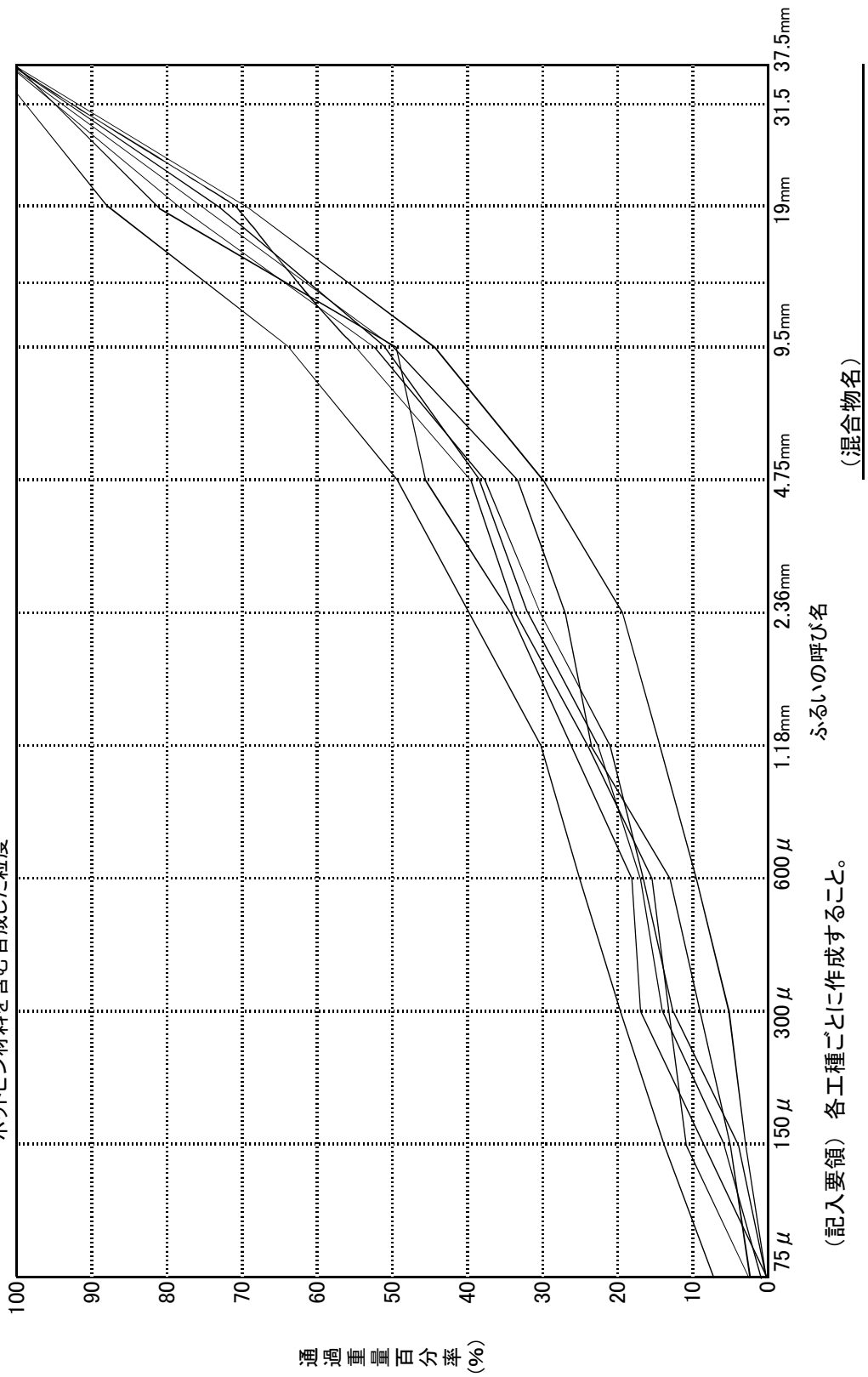
粗骨材	比 重	
	吸 水 量 (%)	
	す り へ り 量 (%)	
	安 定 性 (%)	

細骨材	比 重	
	吸 水 量 (%)	
	安 定 性 (%)	

備 考

注)イ. 産地及び材料ごとに記入すること。 ロ. 備考欄には試験機関名その他の試験結果を記入すること。

ふるい分け試験取まとめ図(記載例)
 ホットビン材料を含む合成した粒度



計量自記記録合格判定値

1. プラント			
2. 合 材 の 種 類	細粒ギャップ・アスコン		
3. 1バッチ当計量値	800	kg	
4. 適 用 粒 度	1・②		

※実施配合比及び配合値

骨材累積最終ビン	2.5mm直近ホットビン	石 粉	アスファルト
81.7%	38.4%	11.5%	6.8%
653.6kg	307.2kg	92.0kg	54.4kg

※合格判定値 I、II

項目	判 定 項 目	合格判定値 I (kg)	合格判定値 II (%)
粒 度	骨材累積最終ビン	653.6 (±39.2)	—
		614.4~692.8	
度	2.5mm直近ホットビン	307.2 (±48.9)	53.0 (±11.0)
		258.3~356.1	42.0~64.0
石 粉	石 粉	92.0 (+19.9 / -13.8)	11.5 (+3.4 / -2.3)
		78.2~111.9	9.2~14.9
ア ス フ ア ルト	ア ス フ ェ ル ト	54.4 (±3.5)	6.8 (±0.8)
		50.9~57.9	6.0~7.6

上段・実施配合値(比)及び許容範囲
下段・計量値(比)許容範囲

計量自記記録値判定成果

1. 合材の種類	細粒	ギャップ・アスコン	Nc
2. 施工年月日			
3. 記録バッチ数	589	無効バッチ数	4 有効バッチ数 585
4. 合材出荷t数		467.835	

※各グループ別成果(第1次合格判定)

グループ No.	有効 バッチ数	範囲にはずれる個数				備考
		A	B	C	D	
		骨材累積 最終ピン	2.5mm直近 ホットピン	石粉	アスファ ルト	
1	1~100	0	0	0	0	
2	101~200	0	0	1	0	
3	201~300	0	2	4	1	
4	301~400	0	0	1	0	
5	401~500	0	2	6	1	不合格→2次合格判定 舗設測定000~000
6	501 ~ 585 600	0	0	0	0	
7	601~700					
8	701~800					

※第2次合格判定

グループNo.5のC.....407.408.452.466.489.494

コンクリート管理試験日報														
供試体 採取日	年 月 日			天 候	気 温	最高	最低	測定者						
						℃	℃							
示 方 配 合	セメント (kg)	粗骨材 (kg)	砂 (kg)	混和剤	水 (ℓ)	現 場 配 合	セメント (kg)	粗骨材 (kg)	細骨材 (kg)	混和 剤	水 (ℓ)	粗 細 骨 材 の 調 節	粗細骨材 による 量の調節	表面水量 による 調節
構造物	打設 位置	配合 種別	設計コン クリート量 (m ³)	コンクリート打設量			コンクリ ート温 度 (℃)	スラン プ (cm)	空気量 (%)	供試体採取数		備 考		
				パッチ数	m ³					7日	28日			
供 試 体 記号・番号	配合種別	養生方法	試験材令 (日)	供試体重量 (kg)	最大荷重 (KN)	圧縮強度(N/mm ²)		備 考						
						各 個	平 均							
備 考														

注)レディミクストコンクリートについては、現場配合の欄を省略することができる。

空気量、スランプ等の取りまとめ図

測定者 _____

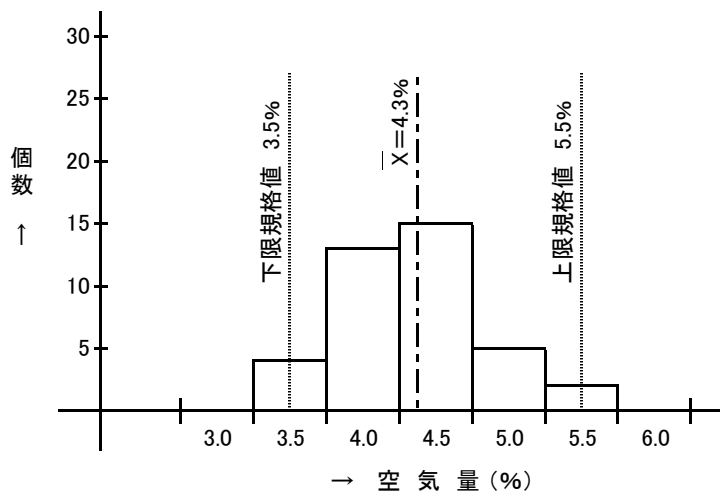
配合種別 _____

I. 空気量の測定

空気量(4.5%)の場合
規格値(±1.0cm)

n = 39

$$\bar{X} = \frac{3.5 \times 4 + 4.0 \times 13 + 4.5 \times 15 + 5.0 \times 5 + 5.5 \times 2}{39} = 4.3\%$$

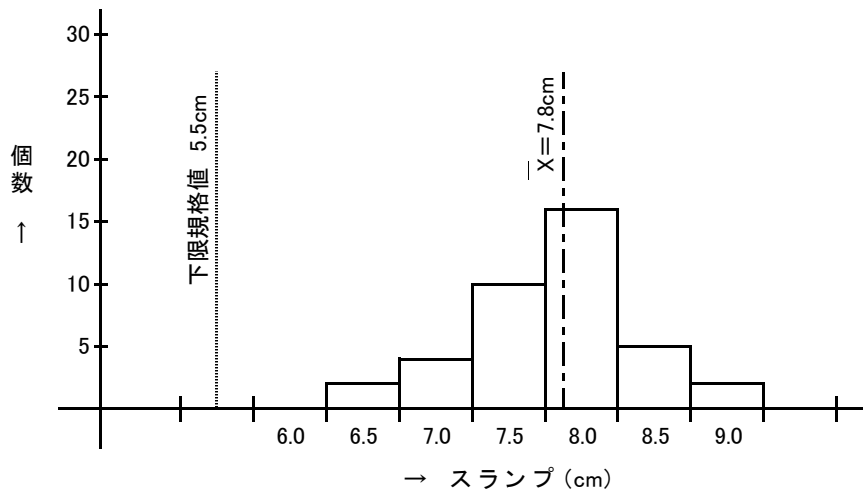


II. スランプの測定

スランプ(8cm)の場合
規格値(±2.5cm)

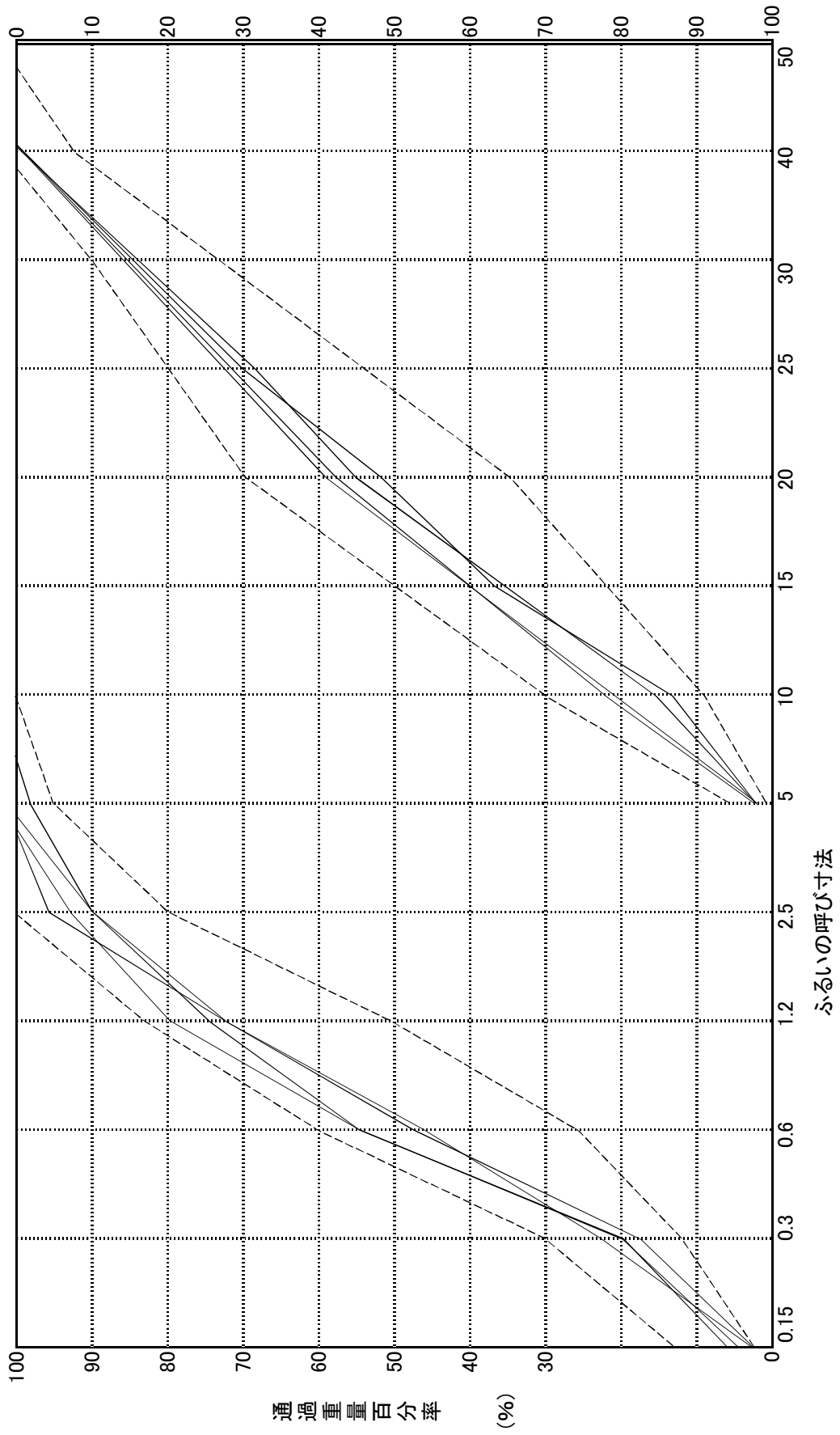
n = 39

$$\bar{X} = \frac{6.5 \times 2 + 7 \times 4 + 7.5 \times 10 + 8 \times 16 + 8.5 \times 5 + 9 \times 2}{39} = 7.8\text{cm}$$



様式一22

コンクリート骨材ふるい分け試験取まとめ図(記載例)



コンクリート品質検査報告書

測定者

配合種別(記号) _____

呼び強度 _____ N/mm^2

※納入生コン工場 _____

構造物	打設位置	供試体		最大荷重 (KN)	圧縮強度(N/mm^2)			供試体採取 作業所名	試験 年月日	備考
		試験回数	番号		各個	平均	3回の 平均			

※試験回数 _____ の圧縮強度試験結果は当作業所に打設のものであることを証明します。

年 月 日

作業所名 _____

責任者 _____

※試験回数 _____ の圧縮強度試験結果は当作業所で施工のものであることを証明します。

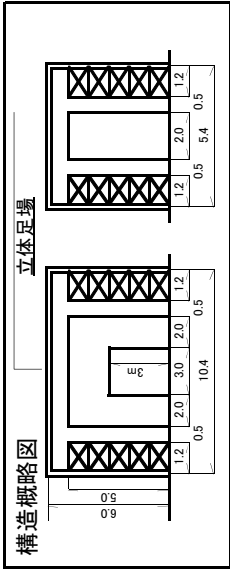
年 月 日

作業所名 _____

責任者 _____

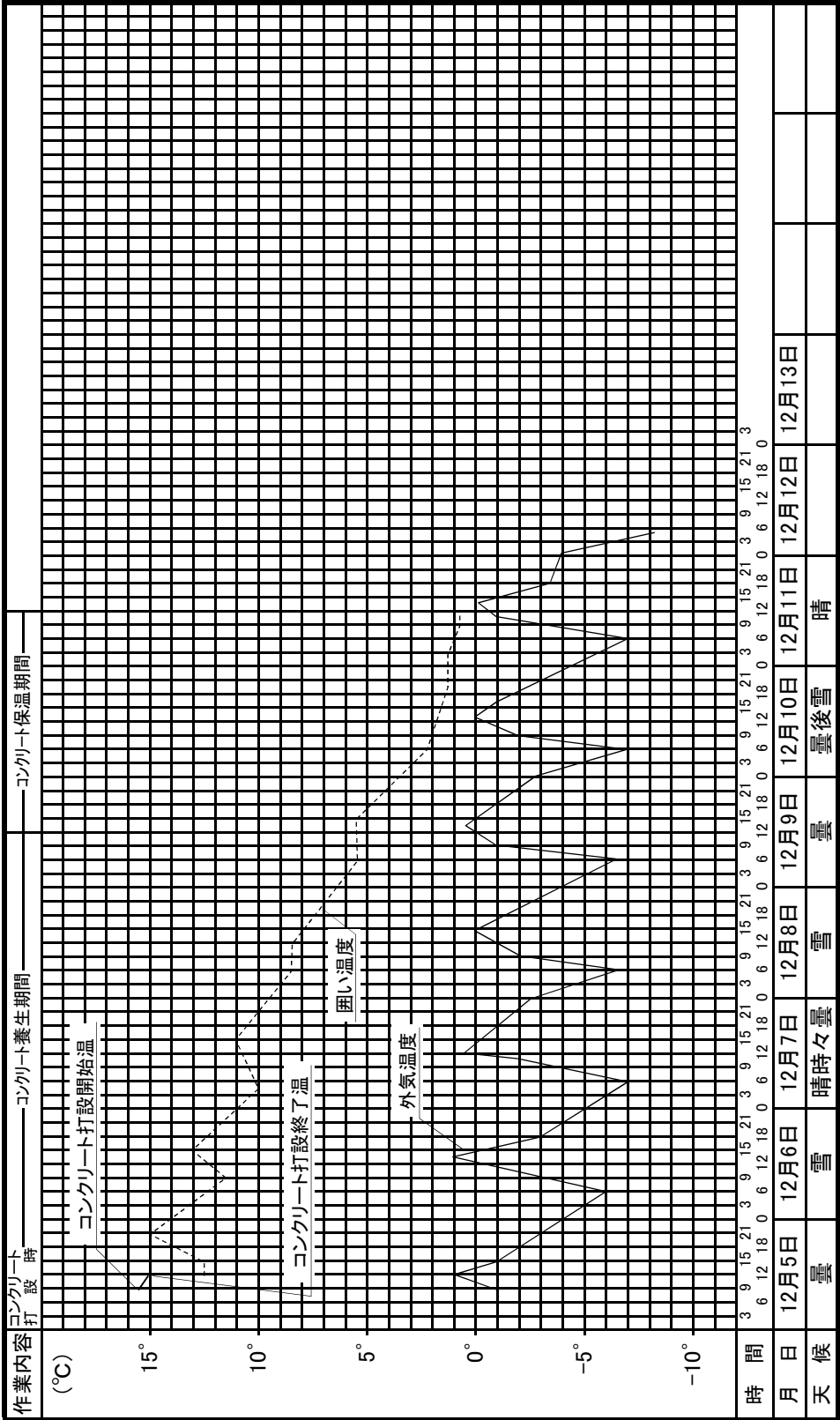
※ 生コン使用の場合記入する。これに代わる証明書でもよい。

寒中コンクリート温度管理記録表(例)



構造物名	配合種別	設計量	打設量
橋脚躯体	RC-1	52.0	52.5
セメントの種類	構造物の露出状態		
普通ポルトランドセメント	普通の露出状態		

測定者



様式-25

レディーミクストコンクリート配合計画書										
様 _____								No. _____ 年 月 日		
製造会社名・工事名 _____								配合計画者名 _____		
工事名称										
所在地										
納入予定時期										
本配合の適用期間 a)										
コンクリートの打込み箇所										
配合の設計条件										
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm		粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号				
指定事項	セメントの種類	呼び方欄に記載		空気量		%				
	骨材の種類	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量		kg/m ³				
	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載		コンクリートの温度		最高・最低 °C				
	アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)			水セメント比の目標値の上限		%				
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		単位水量の目標値の上限		kg/m ³				
	水の区分	使用材料欄に記載		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限		kg/m ³				
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合欄に記載		流動化後のスランプ増大量		cm				
	塩化物含有量	kg/m ³ 以下								
	呼び強度を保証する材齢			日						
使用材料 c)										
セメント	生産者名				密度 g/cm ³		Na ₂ Oeq ^{d)} %			
混和材	製品名		種類		密度 g/cm ³		Na ₂ Oeq ^{e)} %			
骨材	No	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 f)		粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実積率 h)	密度 g/cm ³		微粒分量の範囲 i) %
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①									
	②									
	③									
粗骨材	①									
	②									
	③									
混和剤①	製品名				種類			Na ₂ Oeq ^{j)} %		
混和剤②										
細骨材の塩化物量 ^{k)}		水の区分 ^{l)}		目標スラッジ固形分立 ^{m)}		%				
配合表 ⁿ⁾ kg/m ³										
セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
水セメント比		%		水結合材比 ^{o)}		%		細骨材率		%
備考	骨材の質量配合割合 ^{p)} 、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。									

様式-25

アルカリ総量の計算表 ^{a)}			
アルカリ総量の計算		判定基準	計算及び判定
コンクリート中のセメントに含まれる全アルカリ量 (kg/m ³) R _c $R_c = (\text{単位セメント量kg/m}^3) \times (\text{セメント中の全アルカリ量Na}_2\text{O}_{\text{eq}} : \% / 100)$	①= R _c	—	
コンクリート中の混和材に含まれる全アルカリ量 (kg/m ³) R _a $R_a = (\text{単位混和材量kg/m}^3) \times (\text{混和材中の全アルカリ量} : \% / 100)$	②= R _a	—	
コンクリート中の骨材に含まれる全アルカリ量 (kg/m ³) R _s $R_s = (\text{単位骨材量kg/m}^3) \times 0.53 \times (\text{骨材中のNaClの量} : \% / 100)$	③= R _s	—	
コンクリート中の混和剤に含まれる全アルカリ量 (kg/m ³) R _m $R_m = (\text{単位混和剤量kg/m}^3) \times (\text{混和剤中の全アルカリ量} : \% / 100)$	④= R _m	—	
流動化剤を添加する場合は、コンクリート中の流動化剤に含まれる全アルカリ量(kg/m ³) R _p ^{f)} $R_p = (\text{単位流動化剤量kg/m}^3) \times (\text{流動化剤中の全アルカリ量} : \% / 100)$	⑤= R _p	—	
コンクリート中のアルカリ総量 (kg/m ³) R _t $R_t = ① + ② + ③ + ④ + ⑤$	R _t	3.0 kg/m ³ 以下	適・否

- 注 a) 本配合の適用期間に加え、標準配合、又は修正標準配合の別を記入する。
 なお、標準配合とは、レディーミクストコンクリート工場で社内標準を基本にしている配合で、標準状態の運搬時間における標準期の配合として標準化されているものとする。また、修正標準配合とは、出荷時のコンクリート温度が標準配合で想定した温度より大幅に相違する場合、運搬時間が標準状態から大幅に変化する場合、若しくは、骨材の品質が所定の範囲を超えて変動する場合に修正を行ったものとする。
- b) JIS A 5308 附属書B 表B.1の記号欄の記載事項を、そのまま記入する。
- c) 配合設計に用いた材料について記入する。
- d) ポルトランドセメント及び普通エコセメントを使用した場合に記入する。JIS R 5210の全アルカリの値としては、直近の6か月間の試験成績表に示されている、全アルカリの最大値の最も大きい値を記入する。
- e) 最新版の混和材試験成績表の値を記入する。
- f) アルカリシリカ反応による区分、及び判定に用いた試験方法を記入する。
- g) 細骨材に対しては、砕砂、スラグ骨材、人工軽量骨材、及び再生細骨材Hでは粒の大きさの範囲を記入する。
 粗骨材に対しては、砕石、スラグ骨材、人工軽量骨材、及び再生粗骨材Hでは粒の大きさの範囲を、砂利では最大寸法を記入する。
- h) 細骨材に対しては粗流率の値を、粗骨材に対しては、実績率又は粗流率の値を記入する。
- i) 砕石及び砕砂を使用する場合に記入する。
- j) 最新版の混和剤試験成績表の値を記入する。
- k) 最新版の骨材試験成績表の値 (NaClとして) を記入する。
- l) 回収水のうちスラッジ水を使用する場合は、“回収水 (スラッジ水)” と記入する。
- m) スラッジ水を使用する場合に記入する。目標スラッジ固形分率とは、3%以下のスラッジ固形分率の限度を保証できるように定めた値である。
- n) 人工軽量骨材の場合は、絶対乾燥状態の質量で、その他の骨材の場合は表面乾燥飽水状態の質量で表す。
- o) 高炉スラグ微粉末などを結合材として使用した場合にだけ記入する。
- p) 全骨材の質量に対する各骨材の計量設定割合をいう。
- q) コンクリート中のアルカリ総量を規制する抑制対策の方法を講じる場合にだけ別表に記入する。
- r) 購入者から通知を受けたアルカリ量を用いて計算をする。

様式-26

レディーミクストコンクリート納品書										No. _____		
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 様 製造会社名・工事名 </div>										年 月 日		
納入場所												
運搬車番号												
納入時刻					発			時				分
					着			時				分
納入容積					m3		累計		m3			
呼び方	コンクリートの種類による記号		呼び強度		スランプ又はスランプフロー cm			粗骨材の最大寸法 mm		セメントの種類による記号		
配 合 表 a) kg/m3												
セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②		
水セメント比		%	水結合材比 b)		%	細骨材率		%	スラッジ固形分率		%	
備考 配合の種類： <input type="checkbox"/> 標準配合 <input type="checkbox"/> 修正標準配合 <input type="checkbox"/> 計量読取記録から算出した単位量 <input type="checkbox"/> 計量印字記録から算出した単位量 <input type="checkbox"/> 計量印字記録から自動算出した単位量												
荷受職員認印				出荷係認印								

注記 用紙の大きさは、日本産業規格A列5番(148 mm × 210 mm)又はB列5番(182 mm × 257 mm)とするのが望ましい。

注 a) 標準配合、修正標準配合、計量読取記録から算出した単位量、計量印字記録から算出した単位量、若しくは計量印字記録から自動算出した単位量のいずれかを記載する。また、備考欄の配合種別については、該当する項目にマークを付す。

b) 高炉スラグ微粉末などを結合材として使用した場合にだけ記入する。

注入モルタル プレパックドコンクリート													管理試験日報					
供試体採取年月日	年月日		天候	気温	最高	最低	℃	℃	受注者	測定者								
モルタル配合	水(L)	セメント(kg)	フライアッシュ(kg)	砂(m ³)	減水剤(kg)	アルミニウム粉末(g)	水セメント比(kg)	水給合材比(%)	摘要									
現場配合	水(L)	セメント(kg)	フライアッシュ(kg)	砂(m ³)	減水剤(kg)	アルミニウム粉末(g)	水セメント比(kg)	水給合材比(%)	摘要									
構造物	打設位置	設計 プレパックド コンクリート 量(m ³)	モルタル打設量		モルタル 温度 (°C)	フロー値 (秒)	ブリージ ング (%)	膨張率 (%)	供試体採取日									
			パッチ数	m ³					7日	28日	91日							
供試体記入番号	配合種別	養生方法	供試体重量(kg)	最大荷重(kg)	最大荷重(KN)	圧縮強度(N/mm ²)		備考										
						各個	平均											
モルタル																		
コンクリート																		
備考																		

注入コンクリート報告書

年 月 日

様 工事名

注入箇所		粗骨材 填充月日		填充量	
注 入 時 刻	開 始	前 後	時	分	所 要 時 間
	終 了	前 後	時	分	
注 入 量	バッチ数	総 量	セメント 使用量		
フロー値	1回	2回	3回	4回	5回
注入状況その他(パイプ配置略図等)					
工事監督員				報告者	

注入コンクリート配合報告書

様 施 工 者

整 理 番 号		報 告 年 月 日		配 合 計 画 者 名			
工 事 名							
所 在 地							
注 入 コ ン ク リ ー ト 施 工 箇 所				所 要 フ ロー 値			
セ メ ン ト 種 別		製 造 会 社 名		単 位 セ メ ン ト 量	kg/m ³		
フ ラ イ ア ッ シ ュ 種 別 (会 社 別)			分 散 剤	ポ ザ リ ス No.8	濃 度		
細 骨 材		最 大 寸 法	mm	粗 粒 率	%	比 重	
砂 利 、 砕 石		同 上	mm	空 隙 率	%	同 上	
最 大 水 セ メ ン ト 比	%			4 週 圧 縮 強 度		kg/m ²	
標 準 配 合 表							
材 料 所 要 量	セメント kg/m ³	フライアッシュ kg/m ³	細骨材 kg/m ³	ポゾリス No.8 kg/m ³	アルミ粉末 kg/m ³	水 ℓ/m ³	フロー値 sec
1 バ ッ チ 材 料 所 要 量							
重 量 配 合 比				水、セメント比		%	
配合設計の方法その他							

P C グ ラ ウ ト エ 試 験

年 月 日
天候

測定者 _____

試験番号 _____

試験場所 _____

測定開始時刻 午前・後 時 分 _____

測定終了時刻 午前・後 時 分 _____

気 温 _____ °C

セメント温度 _____ °C

使用水温 _____ °C

グラウト温度 _____ °C

1. 材 料

材料	種類	製造業者
セメント		
フライアッシュ		
セメント分散剤		
A. L. 粉 末		

2. 練り混ぜ

ミ キ サ _____

ミキサの回転数 _____ 回/分

練り混ぜ時間 _____ 分

材料投入時間 _____ 分 秒

3. バッチ配合

W/C (%)	C (kg)	W (kg)	Pozz (g)	AL (g)	AL/C (%)

4. 試 験

練り混ぜ後放置時間	分
	秒
流下時間	秒
	秒

番号	直後の読み (cc)	3時間経過後の読み		20時間以上経過後の読み		ブリージング率		膨張率 (%)	
		水 (cc)	グラウト (cc)	水 (cc)	グラウト (cc)	3時間後 (%)	20時間後 (%)	3時間後	20時間以上

圧縮強度試験					圧縮強度試験				
番号	材令	荷重 (KN)	圧縮強度 (N/mm ²)	備考	番号	材令	荷重 (KN)	圧縮強度 (N/mm ²)	備考
平均					平均				

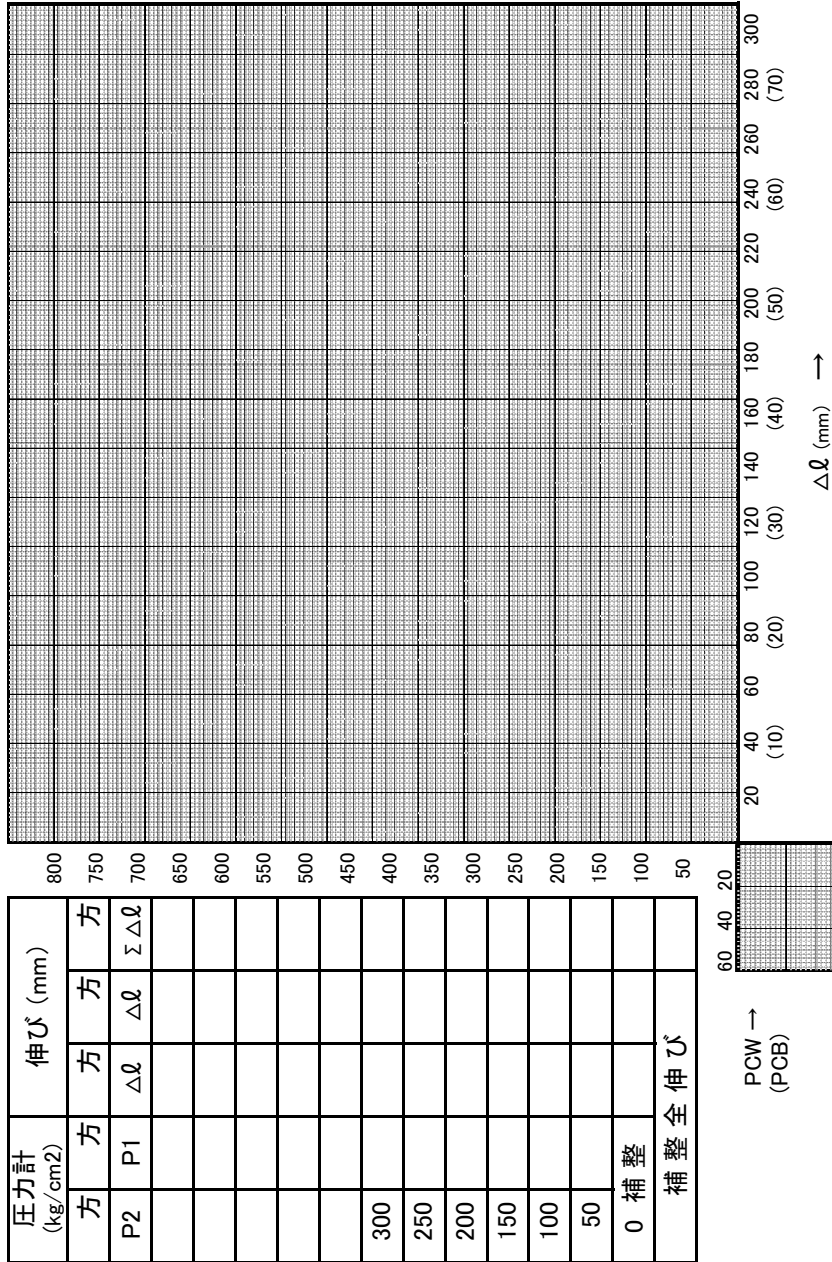
プレストレスリング管理表(1)

緊張年月日	年月日
けた番号	No.
ケーブルNo.	
緊張順序	

測定者

コンクリート打設	年月日
コンクリートの圧縮強度	
$\sigma = N/mm^2$ (自然養生)	
$\sigma = N/mm^2$ (標準養生)	
支間中央最終戻り値	mm
短縮量	mm

緊張上の特記事項	
晴・曇・雨	気温 °C

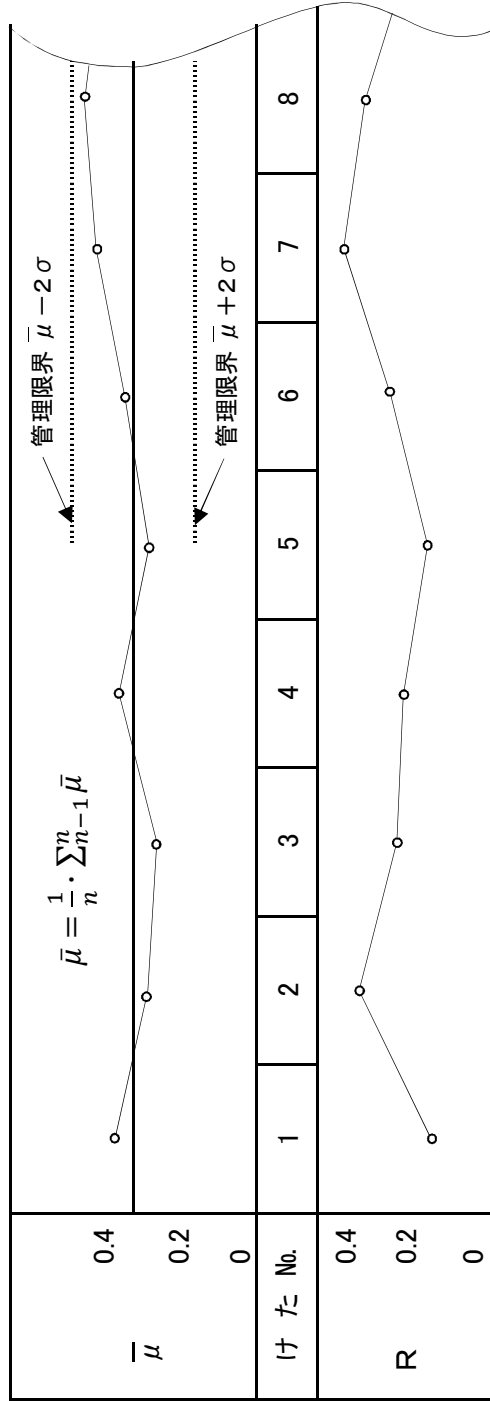


プレストレスリング管理表(2)

(PCケーブールの組による管理)

けた番号	1	2	3	4
ケーブール番号	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
摩擦係数の値(μ)	0.37 0.27 0.36 0.34 0.40 0.40	0.18 0.30 0.20 0.10 0.40 0.45		
μの平均値(μ̄)	0.272			
μの範囲(R)	0.35			

けた番号	8	9	10	11
ケーブール番号	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
摩擦係数の値(μ)	0.28 0.63 0.38 0.34 0.35 0.29			
μの平均値(μ̄)	0.378			
μの範囲(R)	0.35			



高力ボルト締付け検査記録表

検査年月日		年月日		測定者		KN・m		
高力ボルトの種類		締付けボルト軸力						
インパクトレンチ ボルト軸力計 トルクレンチ 柄のタワミによる型 ダイヤル目盛型		トルク係数値およびトルク値の算出試験 (ボルト各サイズごと)						
		ボルト	測定軸力	算定トルク値	算出トルク係数	所用軸力になるための トルク値		
インパクトレンチの検定		No.1						
		No.2						
		午前 (作業開始前)	午後 (作業開始前)	作業完了				
		測定軸力						
		セットした軸力						
箇所	検査本数	所用トルク (T)	測定トルクの値 (KN・m)		合計	平均	誤差	許容トルク値
	—							略図及び名称
	—							
	—							
	—							

高力ボルト締付け検査記録表

検査年月日		年月日		測定者									
高力ボルトの種類		F10T		締付けボルト軸力									
インパクトレンチ		社製		トルク係数値およびトルク値の算出試験									
ボルト軸力計		社製		トルク値									
トルクレンチ		柄のタワミによる型		T=0.123×2.2×221.1									
ダイヤル目盛型		社製		=59.8 KN・m									
インパクトレンチの検定													
測定軸力	午 前	午後	作業完了		T=K×d1×N								
	(作業開始前)	(作業開始前)			T=トルク値								
セットした軸力	62		62		K=トルク係数								
	61				d1=ボルト円筒部径の基本値								
					N=ボルト軸力								
箇所	検査本数	所用トルク (T)	測定トルク値 (KN・m)						合計	平均	誤差	許容トルク値	Ta=T×(1±0.10)
			2~口	3~イ	4~へ	6~ニ	9~ク	9~マ					
桁	4本 24本中	61	62	64	62	64	62	64	252	63.0	3.3%	201×1.10=221.1 KN・m	
"	5本 48本中	"	10~リ	10~ル	9~タ	9~ク	9~マ	64	316	63.2	3.6%		
"	5本 48本中	"	12~チ	11~カ	11~ラ	12~ワ	11~ヤ	61	311	62.2	2.0%		
"	4本 24本中	"	16~ケ	16~ア	18~コ	19~テ			251	62.8	3.0%		
" (U.Flange)			64	64	61	62							

略図及び名称

U.Flange 12345678
L.Flange 13 15 17 19
Web 9 10 11 12

膜厚測定記録

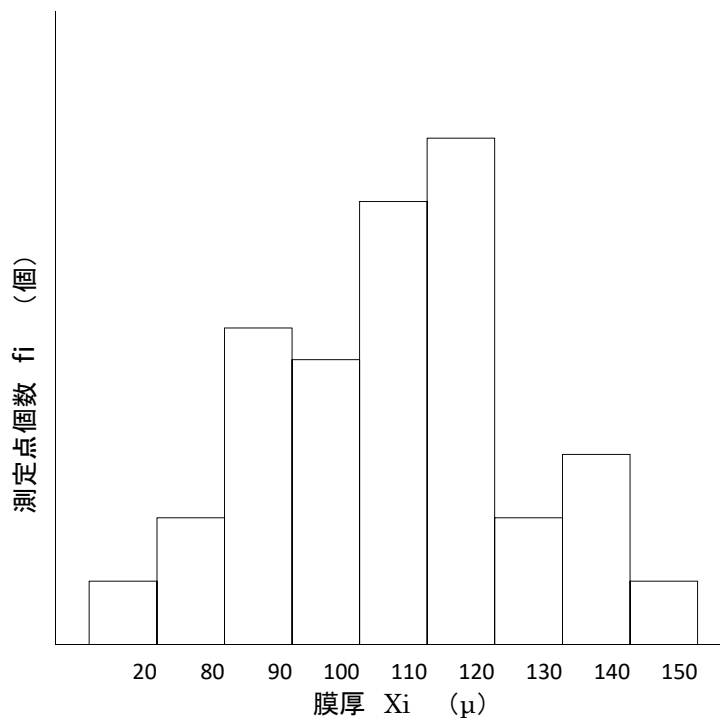
塗 装 系	系					測 定 日 時	年 月 日			
測 定 時 間	工 場 後	現 場 後				測 定 者				
構 造 名						目標塗膜厚合計				
測定値 測定位置		1	2	3	4	5	平均 Xi	平 方 根		備 考
								$\bar{X} - X_i$	$(\bar{X} - X_i)^2$	
G ₁ -1	A									
	B									
	C									
	D									
	E									
	F									
	G									
	H									
	I									
	J									
	K									
	L									
	M									
	N									
合 計								合 計		
平 均 値 $\bar{X} =$										

平 均 値	$\bar{X} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n X_i$	
標 準 偏 差	$S = \sqrt{\frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^n (\bar{X} - X_i)^2}$	

塗膜厚の度数分布表

記録者 _____

膜厚 (μ) X_i	測定点個数 f_i	膜厚 (μ) X_i	測定点個数 f_i
20~29		110~119	
80~89		120~129	
90~99		130~139	
100~109		140~149	
		合計	



くい打込み記録表 (記載例)

くい番号 No.		記録者																			
年	月	日	天候	気温	°C																
くい打機諸元		ディーゼルバイルハンマー D-12																			
長さ	15.0m	貫入深さ	※17.0m	径	600mm																
管厚	9+12mm	作業時間	7'00"~10'20"	作業時間合計	3時間20分																
溶接時間	58'+47"=105'	総打撃数	1,142 回																		
貫入量	0.8cm	リバウンド量	0.6cm	ラム落下高	110cm																
支持力		(支持力の算定は次頁による)																			
くい位置のずれ	X-X	mm	Y-Y	mm	くい角度のずれ	1/100															
備考		※ヤットコ φ600mm L=4.00mを使用 > < は継手位置																			
		土質		N量		標高 (m)		貫入深さ (m)		100cmごとの打撃回数累計		貫入量 (mm)		100cmごとの1打撃当り貫入量 (mm)		落下高の (cm)		ンリドバ量の (mm)			
		シルト交り砂質土																			

[参考]

杭の打止め管理

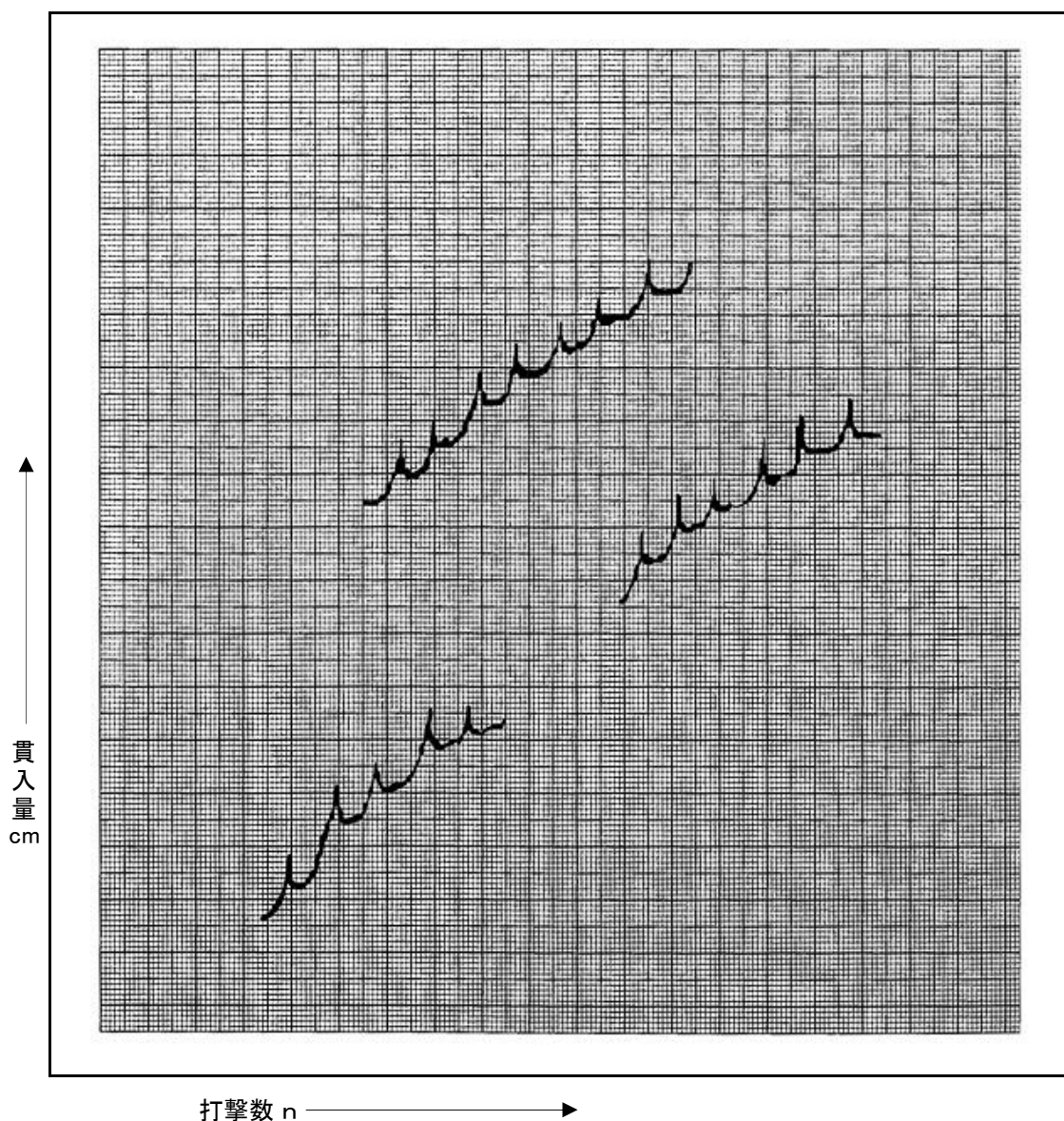
杭の打止め管理は杭の根入れ長さ、リバウンド量（動的支持力）、貫入量、支持層の状態などにより総合的に判断しなければならない。

動的支持力の算定式については「杭基礎工便覧」（日本道路協会H4/10）などによる。

くい貫入量測定記録図

くい番号	No.	
貫入深度	G. L-00	mm
ハンマ重量	W 1.25	ton
ハンマ落下高さ	H 110	cm
貫入量	S 0.4	cm
リバウンド	K 0.6	cm
長期許容支持力	Ra	ton

年月日 年 月 日
測定者



場所打ちぐい施工記録表

測定者 _____

施 工 記 録						(年 月 日)
くい番号		掘削深度		施工機械名		施工時間 合 計
機 械 段 取 替	ケーシング 建 込 み	掘 削	鉄 筋 建 込 み	ト レ ミ ー 建 込 み	コンクリート 打 設	
自 時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分
至 時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	
計 時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	
掘 削 記 録						
掘 削 深 度	時 刻	土 質 名	掘 削 深 度	時 刻	土 質 名	
m	時 分		m	時 分		
出 来 形 ・ 品 質 記 録						
くい位置のずれ	X-X	mm	Y-Y	mm	くい角度のずれ	1/
くい頭コンクリート	とりこわし長	cm	圧縮強度	$\sigma =$	KN/mm ²	

場所打ちくい管理記録図(例)

令和元年7月1日	天候 ばれ 気温 21℃	基礎種別 P ₁ くい番号 P ₁ -3	くい寸法 径100・30m	掘削機械種 ベント EDF55	測定者	施工年月日	
機械すえ付高 A.P.+1.20m	支持層 砂利混り砂	掘削 砂利混り砂	ポリング発生防止のため孔内水位の変動に注意した。	1.0補助バンドつかみ			
鉄筋天端高 設計A.P.+1.12m	コンクリート天端高 A.P.±0m	鉄筋 鉄筋かこの共あがりが見られるのでこのスペーサを修正した。		コンクリート天端高 G.L.-2.0m			
施工A.P.+1.13m	施工 A.P.+1.00m	沈殿物 孔底に水中ポンプを設置し清水置換を実施した。		トレミー撤去 1.63			
掘削記録							
ボーリング図							
端高 A.P. ±0							
-5							
-10							
-15							
-20							
-25							
-30	時間	6.00	7.00	8.00	9.00	10.00	11.00
		凡例					
		A.P. -30.00					
		掘削深さ					

井筒深礎
 施工管理図(例)

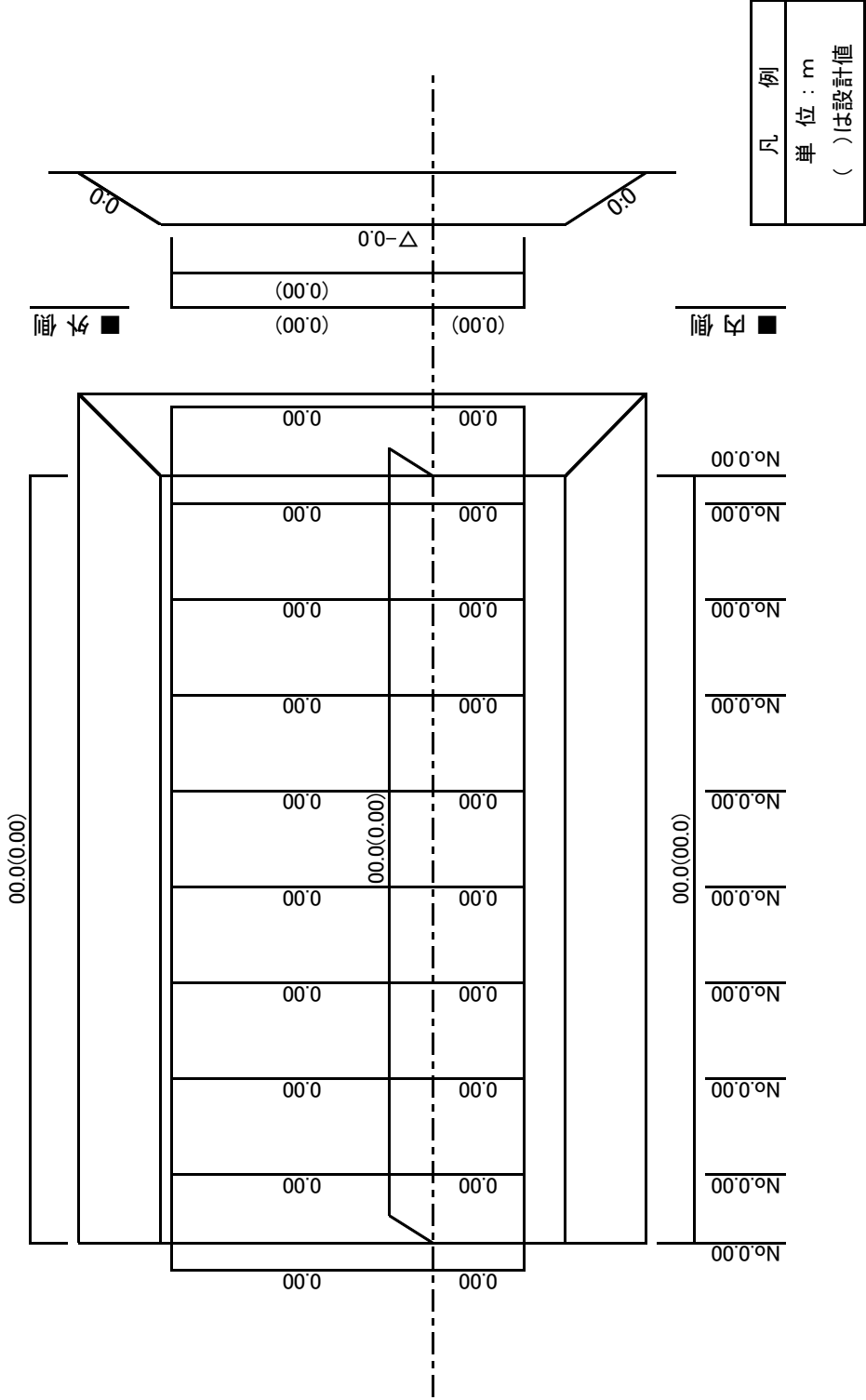
基礎番号	第○号橋脚	形式形状	円形	形状寸法	測定者	位置のずれ			
						天端	地盤高H		
施工値	橋軸	σ=+5	100.250	σ=+10	X-X	Y-Y	φ8.00x20.0m		
		100.000	99.985	σ=+0					
	角度	σ=+5	100.010	σ=+10	X-X	Y-Y	(無規格)		
		100.005	100.000	σ=+0					
深度	ボーリング柱状図	実測柱状図	沈設記録		中埋記録				
±0	砂ン混質ルじ土トリ	砂ン混質ルじ土トリ	5/1	6/1	7/1	8/1	9/3		
5	礫混じり粘土	礫混じり粘土	1ロット20日 整地 月日すえ付	6/2	6/2	7/1	8/1	9/3	
10	玉石混じり土	玉石混じり土	1ロット打設養生 ①ロット H-4.5 14 日	6/2	6/2	7/1	8/1	9/3	
15	硬岩	硬岩	③ロット H-5.0 15日 8日	6/2	6/2	7/1	8/1	9/3	
20			④⑤ロット H-5.5 20日 15日	6/2	6/2	7/1	8/1	9/3	
25				6/2	6/2	7/1	8/1	9/3	
30				6/2	6/2	7/1	8/1	9/3	
特記事項		1. 5.0~7.0ポンプ(φ160)3台使用(80m3/H) 2. 18.5m沈下が止まったので100t 載荷する。		コンクリート打設 ト割り及び高さ		中埋記録 月日 日数		中埋記録 月日 日数	
形状寸法		φ8.00x20.0m		測定者		中埋材		特記事項	
形状寸法		φ8.00x20.0m		測定者		中埋材		特記事項	

基礎工 均しでき形図

現場代理人:

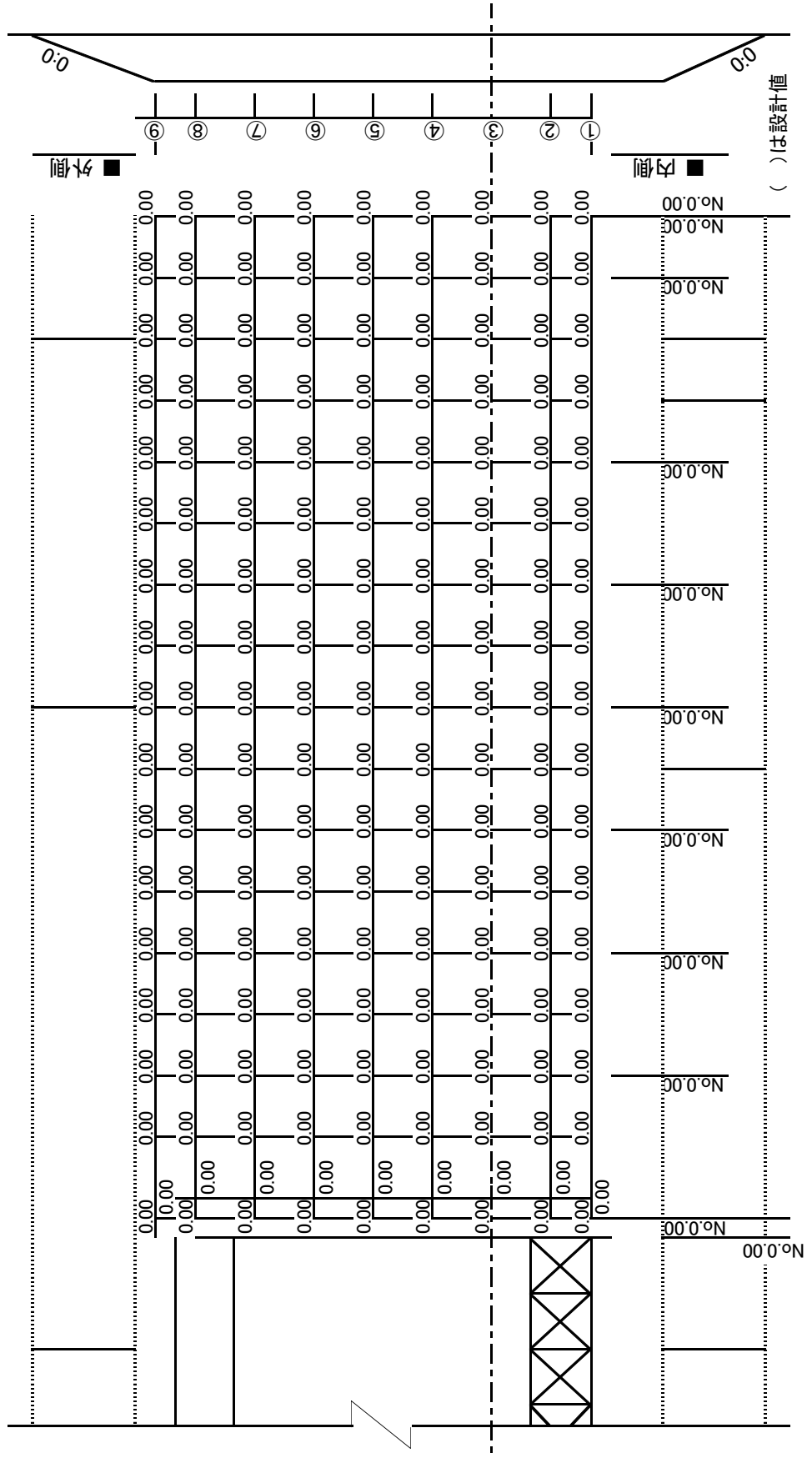
工事名:

測定年月日: 令和 年 月 日



基礎工 均しでき形平面図

現場代理人： 年 月 日
 測定年月日：
 工事名：



刈幅・置幅検測結果表

監督員 確認	
-----------	--

検測年月日 年 月 日
現場代理人

工 事 名	
工事箇所	
刈幅設計値	m
置幅設計値	m

刈幅・置幅許容値	
刈幅(-10%)	~
刈幅・置幅 (セット) (±10%)	~

番号	刈幅(m)	刈・置(セット)	番号	刈幅(m)	刈・置(セット)	番号	刈幅(m)	刈・置(セット)
1			1			1		
2			2			2		
3			3			3		
4			4			4		
5			5			5		
小計			小計			小計		
1			1			1		
2			2			2		
3			3			3		
4			4			4		
5			5			5		
小計			小計			小計		
1			1			1		
2			2			2		
3			3			3		
4			4			4		
5			5			5		
小計			小計			小計		
1			1			1		
2			2			2		
3			3			3		
4			4			4		
5			5			5		
小計			小計			小計		
						合計		

	合計値		検測箇所数		平均値
刈幅		÷		=	
セット		÷		=	

結果

列間・苗間検測結果表

監督員 確認	
-----------	--

検測年月日 年 月 日
現場代理人

工事名	
工事箇所	
樹種	
列間設計値	m
苗間基準値	m

列間・苗間許容値	
列間(±10%)	~
苗間(±10%)	~

番号	列間(m)	苗間(m)	番号	列間(m)	苗間(m)	番号	列間(m)	苗間(m)
1			1			1		
2			2			2		
3			3			3		
4			4			4		
5			5			5		
6			6			6		
7			7			7		
8			8			8		
9			9			9		
10			10			10		
小計			小計			小計		
1			1			1		
2			2			2		
3			3			3		
4			4			4		
5			5			5		
6			6			6		
7			7			7		
8			8			8		
9			9			9		
10			10			10		
小計			小計			小計		
						合計		

	合計値		検測箇所数		平均値
列間		÷		=	
苗間		÷		=	

結果

苗木検査調書

監督員 確認	
-----------	--

検測年月日 年 月 日
 現場代理人

工事名	
工事箇所	
樹種	
苗畑	
納品本数	

苗木標準規格	
苗長	
根元径	
H/D	

番号	根元径	苗木長	H/D	番号	根元径	苗木長	H/D	番号	根元径	苗木長	H/D	番号	根元径	苗木長	H/D
1				26				51				76			
2				27				52				77			
3				28				53				78			
4				29				54				79			
5				30				55				80			
6				31				56				81			
7				32				57				82			
8				33				58				83			
9				34				59				84			
10				35				60				85			
11				36				61				86			
12				37				62				87			
13				38				63				88			
14				39				64				89			
15				40				65				90			
16				41				66				91			
17				42				67				92			
18				43				68				93			
19				44				69				94			
20				45				70				95			
21				46				71				96			
22				47				72				97			
23				48				73				98			
24				49				74				99			
25				50				75				100			

試験盛土による盛土締固め総括表(様式例)

測定	土質 種別	転圧 回数	前進第二速		総重量		履帯中心距離	
			cm	km/H	kg	kg/cm ²	mm	mm
			後進第一速		換地圧		履帯幅×接地長	
			km/H	kg/cm ²			mm	
			試験盛土の試験値			施工箇所盛土の試験値		
			締固度	飽和度	空気間隙率	締固度	飽和度	空気間隙率
			%	%	%	%	%	%
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						

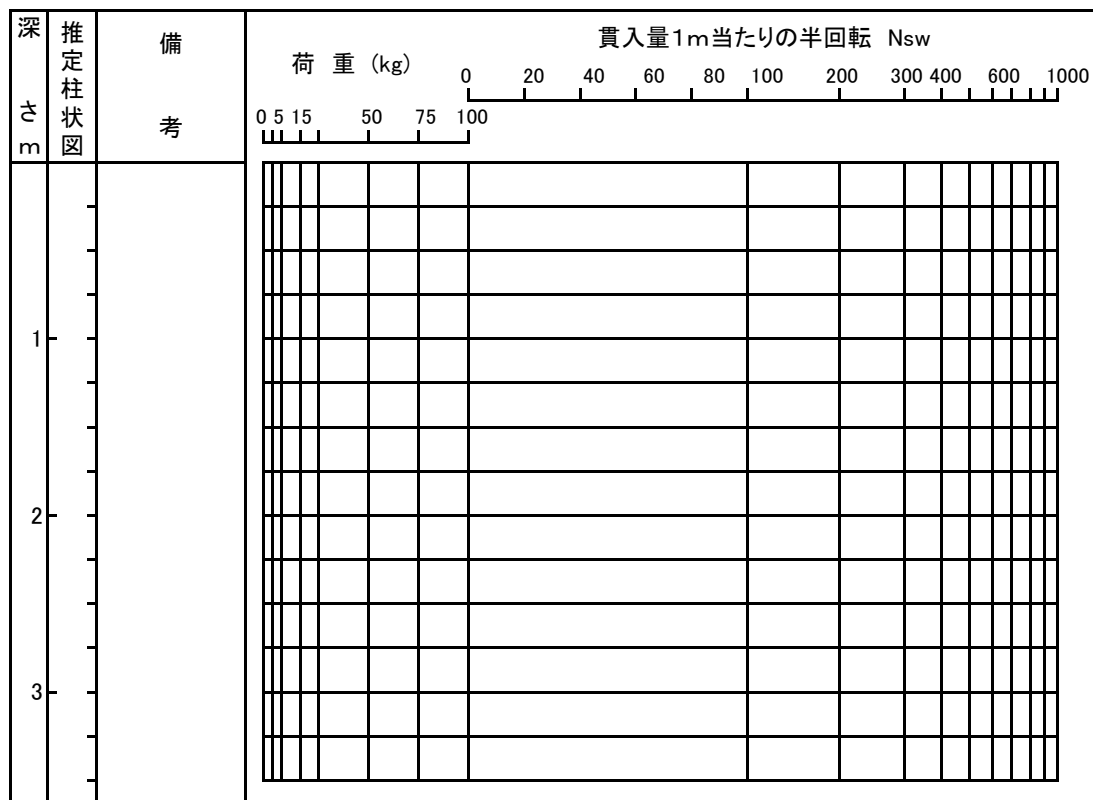
(注)1. 築堤試験盛土等の様式例である。

2. 上表を参考にして各試験方法に応じ適切な総括表を作成すること。

スウェーデン式サウンディング試験

工 事 名					試験年月日	
工 種 名					試 験 者	
載 荷 装 置						
荷 重 W _{sw} (kg)	半 回 転 数 N _a	貫 入 深 さ D (m)	貫 入 量 L (m)	1m当たりの 半回転数 N _{sw}	備 考	

試験結果図



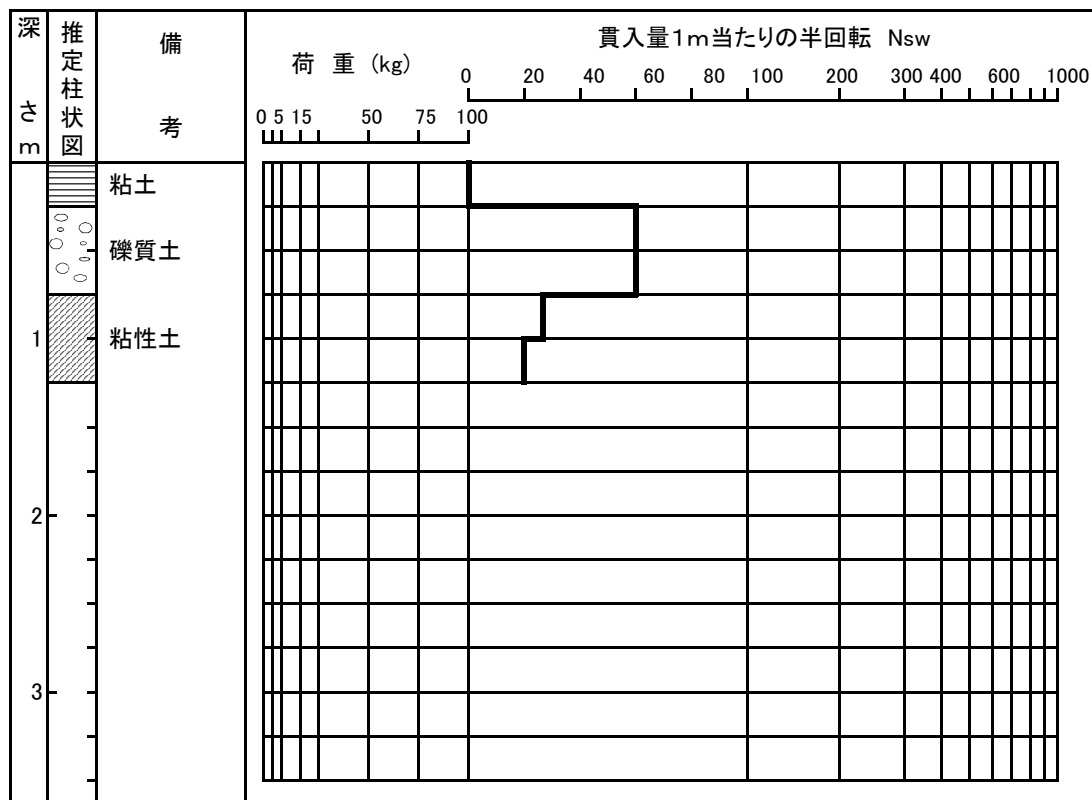
推定柱状図例

	砂		シルト		粘土		粘土質		砂レキ		表土
	砂質		シルト質								

スウェーデン式サウンディング試験（記載例）

工 事 名	〇〇の沢復旧治山工事		試験年月日	令和 2 年 12月 10日	
工 種 名	No.1 土留工		試 験 者	〇 〇 〇 〇	
載 荷 装 置	バックホウ 0.60m ³				
荷 重 W _{sw} (kg)	半 回 転 数 N _a	貫 入 深 さ D (m)	貫 入 量 L (m)	1m当たりの 半回転数 N _{sw}	備 考
0	0	0.25	0	0	建込み
100	15	0.50	25	60	
100	15	0.75	25	60	
100	6	1.00	25	24	
100	5	1.25	25	20	

試験結果図



推定柱状図例

	砂		シルト		粘土		砂レキ		表土
	砂質		シルト質		粘土質				

空白ページ